共に咲く未来へ
笑顔の花をはぐくむ富士見特別支援学校

内閣府の令和６年版障害者白書では、身体障がいのある方は４３６万人、知的障がいのある方は１０９万４千人、精神障がいのある方は６１４万８千人であり、国民のおよそ9.2％が何らかの障がいを有しているとあります。これは約11人に１人の割合にあたります。

富士見市の将来を展望し、理想の〝未来〟を定めた第６次基本構想では、誰もが自分らしく「充実した日々」を送ることができる未来を目指しています。

誰もが自分らしく、充実した日々を送るために重要であることの一つに、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である「共生社会（インクルーシブ）」があります。

何らかの障がいがある人は
約11人に1人

障がいにかかわらず
誰もが自分らしく
そして
共に生きるために

本市における教育振興の基本理念を定めた第３次富士見市教育振興基本計画では、インクルーシブ教育システムの構築の理念に基づき、障がいのある児童生徒一人ひとりのニーズに即した教育支援の推進を掲げています。

共生社会の実現に向けたヒントを探るために、他校との交流学習などに取り組み、インクルーシブ教育を推進している富士見特別支援学校を特集します。

問 秘書広報課
☎049（256）9535

富士見特別支援学校ってどんなところ？

～成り立ちからひもとく　変わらぬ子どもたちへの願い～

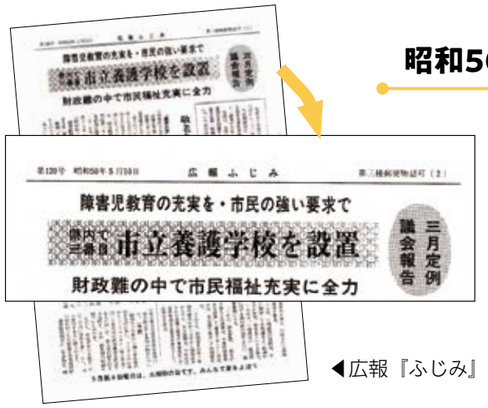
問富士見特別支援学校 ☎049-253-2820

障がいのある全ての子どもに、教育を受けさせたい。その保障や場所を。――

～富士見市立富士見養護学校
創立30周年記念誌『ともに輝く』より～

▲富士見養護学校（当時）

障がいのある子を育てる親の切実な願いを受け、昭和45年、現在の富士見特別支援学校の前身となる富士見市特殊学級共同学習場が開設されました。その後、昭和50年に当時の校名である富士見養護学校として開校し、現校舎への新築移転を経て今年で49年を迎えます。



障害児教育の充実を・市民の強い要求で
県内で三番目 市立養護学校を設置
三月定例議会報告
財政難の中で市民福祉充実に全力

◀広報『ふじみ』昭和50年5月10日号

昭和50年 県内3番目に市立支援学校を設置

市立の特別支援学校（当時の養護学校）は県内でも珍しく、県内で3番目に開校した学校で、小学部・中学部・高等部の3つの学部があります。

「共生社会」の形成に重要とされているインクルーシブ教育システムですが、その構築のために必要不可欠といわれる特別支援教育に本市は古くから取り組んできました。

昭和60年 現在の校舎が完成

昭和60年5月23日、完成した現在の校舎での入校式が行われました。当時の広報紙では、**「障害児教育の集大成」**として次のようにつづられています。

―人の心を育てることを失った知育偏重の教育ではなく、子供から教わり、子供の「宝」を引き出す教育が、この養護学校で実践されることでしょう。―

それぞれの個性を大切にし、お互いを思いやる心を育てる教育、その想いは開校時から今もなお脈々と受け継がれています。

障害児教育の集大成
養護学校新校舎完成

▲広報『ふじみ』昭和60年6月10日号

富士見特別支援学校のあゆみ

昭和44年	親の会結成
昭和45年4月	前身の「富士見市特殊学級共同学習場」を開設
昭和50年4月	県内3番目の市立養護学校として「富士見養護学校」（小学部）を開設（旧校舎）
昭和51年4月	中学部1学級が認可
昭和54年4月	高等部1学級が認可
昭和60年5月	現在の所在地に新築移転（上南畑1317）
平成21年4月	現在の名称である「富士見特別支援学校」に校名変更

◀令和2年に新しくなった校章

校歌の歌詞にある「ひまわり」と支援学校の「支」をもとに作成されています。

花びらは12枚あり、「小学部1年生から高等部3年生の12年間に、多くの人に支えられながら子どもたちが成長して花を咲かせられるように」との願いが込められています。

▼富士見特別支援学校（現在）

――平成、令和。変わる時代、変わらぬ願い。

現在の富士見特別支援学校では、知的障がいのある富士見市・ふじみ野市在住の約80人の児童生徒が在籍しており、県立の支援学校と比べると少人数のアットホームな雰囲気です。

陽の光がそそぐ明るい校舎で、児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、自ら生きる力を養い、社会的に自立できる心豊かな人間を育成することを目標に、教育活動に励んでいます。

齊藤七実校長先生からのメッセージ

子どもたちの未来が幸せであるように

本校の子どもたちには、いつも明るく元気に、思いやりの心をもち、いのちを大切に、そして、自分の力を発揮し懸命に取り組む「なかよく」「げんきで」「がんばる」児童生徒になってほしいと願っています。

日々、身の回りのことを一人でできる力など社会生活に必要な能力や自立を目指した生活態度を身に付けるため、精一杯活動に取り組んでいます。

子どもたちの可能性を最大限に伸ばし、明るく笑顔いっぱいの子どもたちの未来が幸せであるよう、保護者をはじめ地域や関係機関の協力を得ながら、教職員一丸となって教育活動に取り組んでいます。

みずほ学園（児童発達支援センター）

問みずほ学園 ☎049-252-3237

昭和47年に、発達に心配のある就学前のお子さんの通園施設として「みずほ学園」が開設されました。富士見特別支援学校、みずほ学園、入間東部むさしの作業所の三位一体で障がい者福祉・教育を推進し、障がい児の発達を豊かにしていく取り組みが行われました。

現在の園舎は、移転により平成14年に建設された木の温もりあふれる施設です。平成25年に児童福祉法に基づく児童発達支援センターの指定を受け、富士見市の療育の中核を担う療育センターとなっています。

みずほ学園に通いながらの療育と、在宅または保育所・幼稚園などに通うお子さんを支援する事業を行っています。

自立を育て 笑顔あふれる 学校生活

一人ひとりに合わせた学習を

富士見特別支援学校では、子どもの特性、長所や得意とすることに合わせて、一人ひとり教材や授業内容が異なります。子どもたちは、それぞれ最適な方法で学習に励んでいます。

楽しくからだを動かす

5月24日に中・高等部、6月7日に小学部の運動会が行われました。全面芝生の校庭で、子どもたちが元気に、そして全力で取り組む姿に、保護者の皆さんの応援にも熱が入りました。

▼互いに一歩も譲らない綱引きは接戦に

▶受け継いだバトンを責任をもってつないだリレー

自校調理方式で給食を提供

子どもたちに合わせ、食べやすく刻んだりするなど細かな配慮ができるように富士見特別支援学校では校内の調理室で給食を作っています。

心を込めて調理された給食はおいしいと評判で、家庭では食べない料理でも、学校では食べていますとの保護者の声を耳にします。

また、食事も学習の一つとして、調理工程の一部を子どもたちに体験させるなど、学校給食を活用した食育指導にも力を入れています。

音楽で通わせるこころ

6月20日に他校との交流学習として、東中学校と水谷中学校の吹奏楽部合同による演奏会が初めて行われました。音楽の力で生まれた共感は、リズムに乗って体育館いっぱいに伝わりました。

◀ダンスを交えた演奏では、一緒に踊って大盛り上がり！

2校のコラボで盛り上がりも倍増

▶夏のコンクールに向けた練習の合間をぬってこの日のために準備した曲を披露

◀うちわやペンライトを振ったり、体を動かしたり、それぞれの楽しみ方で演奏を楽しみました。

私たちの演奏をノリノリで楽しんでもらえる姿を見て演奏する私たちも楽しくなり、音楽を通して、心が通じたような感覚でした！

最初は楽しんでもらえるか不安でしたが、予想以上に楽しんでもらえて、演奏している私たちもとても楽しかったです！

水谷中吹奏楽部
部長 斉木さん

東中吹奏楽部
部長 滝谷（たきたに）さん

富士見特別支援学校に通う児童生徒の保護者インタビュー

子どもの幸せ＝私たちの幸せ

支えてくれる先生方に感謝

――特別支援学校を選んだ理由は

前園　私はふじみ野市在住のため県立の支援学校の選択肢もありましたが、学校説明会での校長先生の人柄に惹かれ、富士見特別支援学校を希望しました。なかなか入れないと聞いていましたが、無事入学できて良かったです。現在、小学部2年生になります。

重見　子どもが年長クラスのときに県外から富士見市に引っ越してきました。富士見市のことは知らなかったのですが、富士見特別支援学校を知り、この学校で育ってほしいと思いました。現在、中学部2年生になりますが、以前に住んでいたまちと比べて、富士見市は福祉が充実しており、住んで良かったと思っています。

砂川　小学6年生までは支援学級に通っていましたが、本人の希望もあって中学入学時にこの学校に通うことになり、中学部3年生になりました。この学校は、進路にも力を入れられていて、保護者勉強会を開催するなど親へのサポートも手厚くて、すごく心強いです。

――お子さんに変化はありましたか

重見　年中クラスまで普通の保育園に入っていましたが、明らかに周りの子とは違うと感じました。また、子どもは体調が悪くなるなどの反応が現れ、生きづらさを感じとりました。みずほ学園や特別支援学校では、すくすく育ってくれています。学校に行きたくないと言うこともなく、自ら学校での出来事を伝えてくれるときもあり、前向きに幸せな時間を過ごしています。

砂川　うちの子にはどうしても譲れないこだわりがあり、日々とてつもない生きづらさを感じながら生活していました。この学校は、子のこだわりを理解し、自主性を大切にしてくれます。子どもにとってそれが大きな自信につながり、今は親子ともに気持ちが楽になりました。先生方にはとても感謝しています。

前園　去年の秋ごろから学校でトイレトレーニングを始めて、今ではだいぶうまくいくようになりました。これまではうまくいかず諦めかけていましたが、ごみを捨てるときのオムツの量の少なさに成果を実感しています。

子どもの成長と地域のあたたかさに感動

――お子さんの成長を感じた出来事は

砂川　毎年母の日は、学校で作ったプレゼントをバッグの中に放置しているので、私が勝手に発見しては喜んでいました。母の日は、私に感謝する日なんだよって、自分で説明するのも変なので、理解してくれるときがくるといいなとだけ思っていましたが、今年は学校で作ったカードを「いつもありがとう」と、はにかみながらプレゼントしてくれて、とてもうれしかったです。

前園　特別支援学校の給食はおいしいようで、家では食べないものまで完食しています。好きなものを食べて幸せを感じてもらいたいと思う一方、偏食には悩みを抱えていました。学校と同じものを家でも作ってみると、食のバリエーションが増えていきました。家では食べたことがないものまで食べているので、成長したなと感じます。今度、給食試食会があるので楽しみです。

重見　最近では、靴ひもを自分で結べるようになっていて、家では教えたことがないので学校の先生が教えてくれたのだと思います。生活に必要なこと、根気よくやらないと身に付かないこともしっかりと見てくれていると感じます。成長していくわが子に感動するとともに、学校に感謝しています。

――子育てにあたって、地域とのつながりを感じますか

砂川　朝、スクールバスを待っている間、近くの介護ステーションのヘルパーの皆さんが明るく声を掛けてくれます。バスに乗りたくないという事情を抱えた子どもにとって癒しのひとときになっており、心があたたかくなりました。

重見　5年ほど前、自宅で少し目を離した隙に子どもが行方不明になったことがありました。近所のコンビニエンスストアで発見したのですが、店員さんが4時間ぐらい子どもを見てくれていて、食べ物もごちそうになっていました。次から、なにかあったらすぐに連絡しますねと言ってくださり、今でもお店に行くとあいさつをしてくれます。また、子どもが私の伴走でFujimiシティマラソンを走ったときには、たくさんの方から応援していただき、うれしかったですし、子どもの自信にもなりました。参加してよいものか申込時に相談したところ、ぜひ出てくださいと言ってもらえ、こういう場に、私たちもどんどん参加していいのだと感じました。

子ども本人の気持ちを最優先に

――入学前の保護者へのアドバイスを

前園　支援学級とは、子どもに対する手厚さが違うと思います。今後インクルーシブ教育も進んでいくとは思いますが、支援学級か支援学校かで迷われているのであれば、現状では支援学校がいいのではないかと私は思います。

砂川　以前にインクルーシブ教育がうまくいった事例を紹介したテレビ番組を観ました。同じクラスの友達が障がいのある子に関わる中で、こうした場合はどうしたらいいのだろうと考える機会になり、お互いの成長にとって、それは本当に素晴らしいことでした。私も、お互いを理解し合える社会になることを望んでいます。実際、小学校では支援学級ならではの良さがありました。しかしながら一番大事にしなければならないのは、なによりも子どもの気持ちだと思っています。本人がつらい思いをしないためにも、保護者の方には、よく考えて決断してほしいと思います。

重見　うちの子の状態では、子どもが一番幸せに過ごせるのは支援学校がベストな選択だと分かりきっていました。それでも、もしかしたらほかの子と同じようにできる可能性があるのかもしれない、支援学校に行かせたら子どもの可能性を閉ざしてしまうのではないかとすごく悩みました。私は、子どものことを隠すことなく周りに話しているのですが、「実はうちの子も」と相談を受けることがあります。うちの場合は答えが分かっていたのに葛藤に苦しんでいましたから、ちょうど中間的な位置の方だと本当に悩む気持ちが分かります。親目線ではなく、子どもが生きやすいのはどちらなのかで決めるしかないとアドバイスしています。

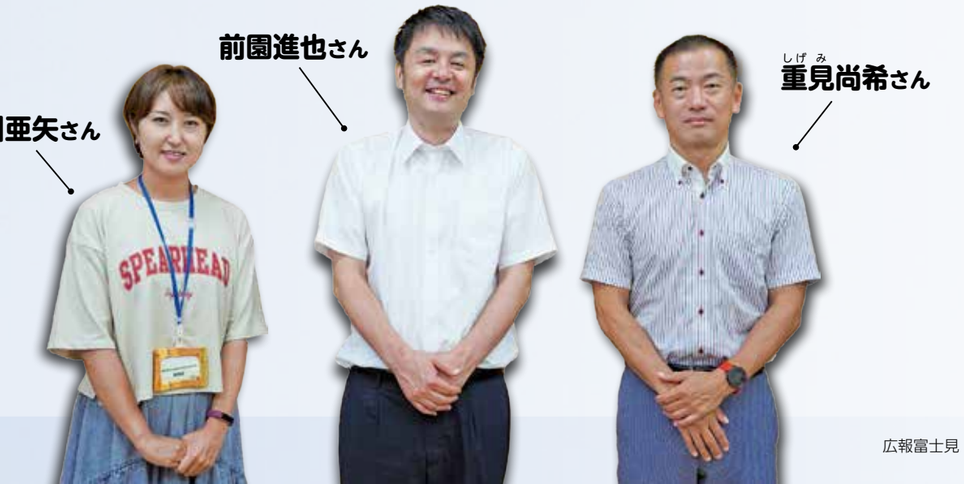
子どもに贈る言葉

砂川　あなたの幸せが私の幸せです。遠回りしながらでもいいので、今を大切にしながら、将来のあなたの幸せを一緒に探していきましょうね。そして、手を差し伸べてくれる方への感謝の気持ちを伝えられる人になってください。

前園　うちの子はいつも笑顔でいて、一緒にいるこちらを幸せにしてくれる子です。これからもその笑顔を絶やさず、学校に通ってほしいなと思います。

重見　素直で純粋で楽しいことは全力で楽しいと表現する子で、周りの人をもうれしい気持ちにさせてくれる雰囲気を持っています。そういうところはこれからも持ち続けていってほしいと思います。あと、願わくば、病気にならないように、ちょっと痩せてほしいなと思います。おいしそうに食べるので、ついついお菓子をあげたくなっちゃうんですけど(笑)。

3人のお話しを伺い、親の葛藤、子どもの幸せへの想いとともに、学校への感謝の気持ちを何度も話される姿に、富士見特別支援学校が子どものみならず、保護者の皆さんの心のよりどころになっているのだと感じました。



卒業生から贈る言葉

令和4年度卒業生の2人は高等部から富士見特別支援学校に入学し、学校生活はとても楽しかったと振り返ります。また、現在は仕事がとても楽しいと、職場で生き生きと働く姿を見ることができました。

これまでの経験から、後輩には**「大変なこともあるけれど、諦めないでほしい」**と語る2人の姿に、少なからず将来に不安を抱えていたであろう子どもたちの心に寄り添う支援の大切さを感じました。

後輩にエール! ―大変なこともあるけれど、諦めないでほしい―

㈱JR東日本グリーンパートナーズで、JR東日本の制服発送業務などを担当

鈴木 健慎（けんしん） さん

特別支援学校では、先生を含めみんなが優しくて、気持ちが楽になり、自分も優しい人になろうと思いました。特別支援学校に通えて、人生が変わったと感じるし、通えて本当に良かったです。

学校で学んだ大切にしていること

言葉遣いや目を見て話すこと

㈱富士薬品 ドラッグストア セイムスで商品の品出しや在庫管理業務などを担当

松木 崇紘（たかひろ） さん

特別支援学校では、話が盛り上がったときや、那須高原へ2泊3日で行った修学旅行など、楽しい思い出がたくさんあります。話しやすい友達、優しい先生方に出会えて良かったです。

学校で学んだ大切にしていること

あいさつは言葉から発してお辞儀する「語先後礼」

進路指導＝生き方を伝えていくこと

単純に卒業後の進路先を決定するのではなく、小・中学部のうちから卒業後の生活を意識し、あいさつ、身支度、身だしなみ、生活リズム、自分の役割を果たすなど、社会での自立に必要な資質・能力の育成を行っています。

高等部では1年生のうちから現場実習を実施することで卒業後をイメージ！

工房ゆい、むさしの作業所をはじめとする福祉事業所などに就職実績あり

「共生社会」を咲かせよう

―　大地にのびた　ひまわりは　はじめは小さな　ひとつの種
　　ぼくもわたしも　陽をあびて　大空むかって　のびようよ
からだいっぱい　いきすって　強いちからで　のびようよ　―

～富士見特別支援学校　校歌の一節より～

インクルーシブ教育の課題の一つに、専門的な知識をもつ教員や支援員の不足など、環境整備が十分に行われない理念先行の性急なインクルーシブ教育の導入が挙げられます。その点、本市は特別支援教育のフロントランナーとして、半世紀も前からみんなが笑顔になる教育を進め、児童生徒と保護者から信頼される教職員、あたたかく見守ってくれる地域の人々という土壌が整っています。

取材を終えて、笑顔で元気に過ごす子どもたち、そして卒業生の「みんなの優しさに救われ、自分も優しい人になろう」「みんなも諦めないでほしい」と語る姿に、支えられる側から支える側への成長を伺うことができました。一人ひとりが少しでも、他者を思いやり、優しさが広がれば、誰もが住みよい世の中になっていくと、富士見特別支援学校の皆さんから教わることができました。

校歌にあるように、どんなことでも、はじめは小さな種。一人ひとりが力いっぱいその芽を伸ばし、咲かせていくことが大切です。

――さあ、富士見市から「共生社会」の花を咲かせましょう――。

あなたの力を待ってます！

学校応援団

手工芸や農園芸などの学習支援活動、登下校の見守りなどの環境支援活動、学校行事など、子どもたちと一緒に富士見特別支援学校で活動してみませんか。